

平成14年度

家庭教育のあり方、見直してみませんか？

～たくましい心と体の中学生を育むために～



福岡県教育委員会では、昭和57年度、平成5年度、平成10年度に続いて、平成14年度に中学生とその保護者を対象に「中学生の意識・行動と親の養育態度・意識の実態調査」を実施しました。

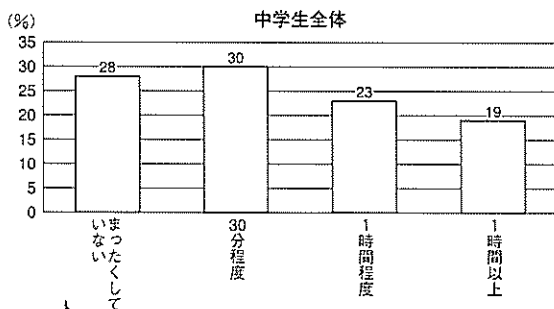
その中から、「現代の中学生がどのような生活をしているのか」「親はどのような意識で子どもと接しているのか」という視点でダイジェストとしてまとめてみました。これからの家庭教育のあり方を探るヒントにしてください。

編集／発行：福岡県立社会教育総合センター
糟屋郡篠栗町大字金出3350-2
TEL 092-947-3511
FAX 092-947-8029

★ 中学生の生活

学習時間

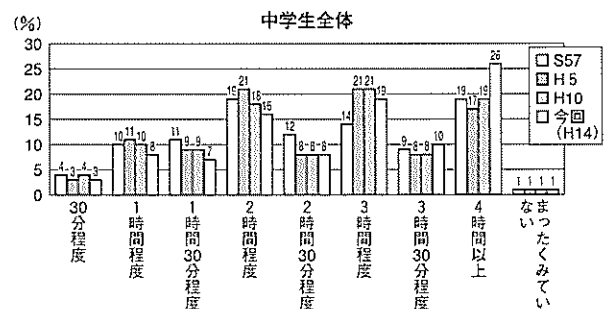
あなたは塾や家庭教師以外で平日どのくらい
家庭で勉強していますか。



「まったくしていません」28%、「30分程度」30%、「1時間程度」23%と8割が1時間以下という結果が出ています。自分自身の人生設計の一部として、自学自習の習慣付けが求められます。

テレビ視聴

あなたは平均してテレビを1日どれくらいみていますか。
(日曜・休日はそのぞく)

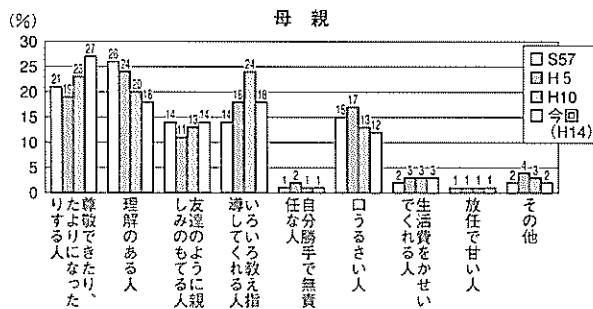
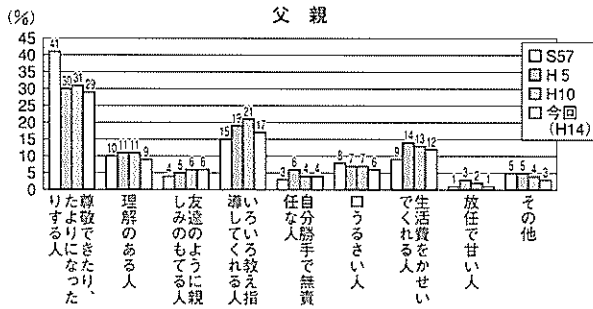
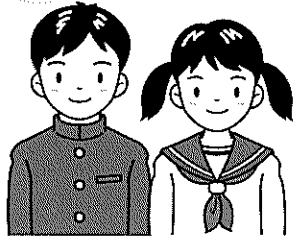


1日「3時間以上」テレビを視聴している割合が55%、「4時間以上」が26%と、過去の調査と比較しても、今回、最長の視聴時間になっています。平日4時間以上の視聴は、テレビ漬けと言ってもよい実態であり、テレビ視聴のルールや、計画的な視聴を行っていくなど、主体的なテレビ視聴の習慣づけが求められます。

中学生の意識

家族の存在

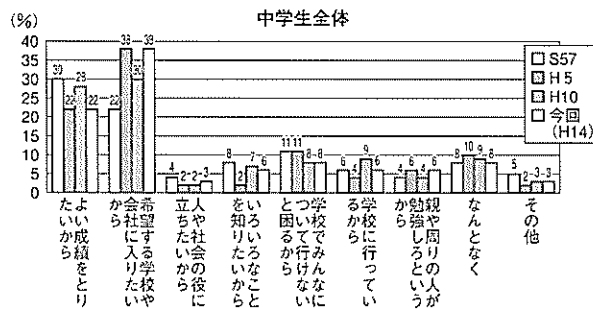
あなたにとって
家族の人とは
どのような存在ですか。



父親1位の「尊敬できたりたよりになったりする人」は初回調査より12%下がっています。一方母親のイメージは「理解のある人」を抜いて「尊敬～」が1位になっています。これらの結果は、仕事に従事しながら家事をこなす母親がたよりにされる一方、外で働き子どもとの接点が少ない父親は、人格に触れるほど存在を感じられにくくなっているのかもしれない。

勉強の目的

あなたが、ふだん勉強するのはどうしてですか。

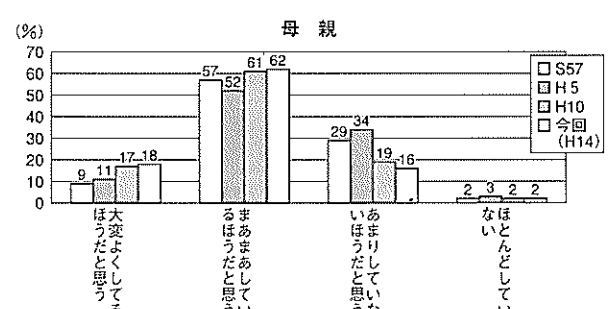
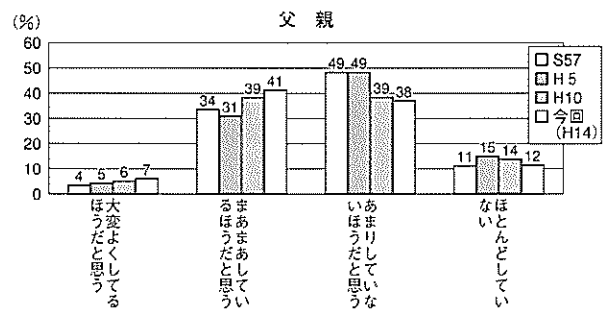
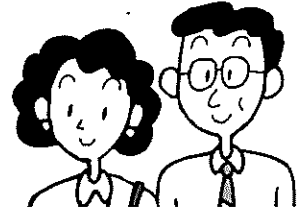


進路や成績に重点をおいた回答が高く、学歴社会を反映したもののと思われます。単に成績を伸ばすことにとらわれず、心のたくましい豊かな人間に成長することが大切なのではないでしょうか。

親の養育態度・意識

世話をしているか

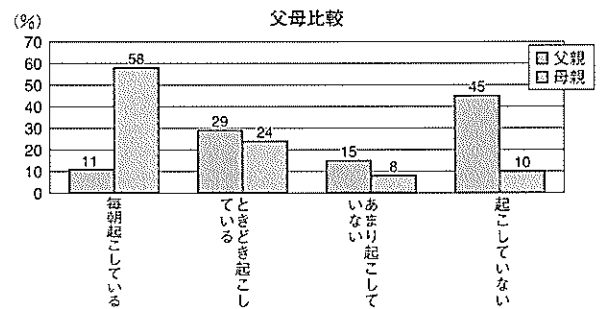
あなたはお子さんの
世話をしているほうだ
と思いますか。



「大変よく」と「まあまあ」を合わせると、世話をしている父親は48%、母親は80%という結果です。この数値は調査を重ねるごとに上がっており、世話をしている内容が子どもの自立を促す方向であるかどうか心配されます。

起床

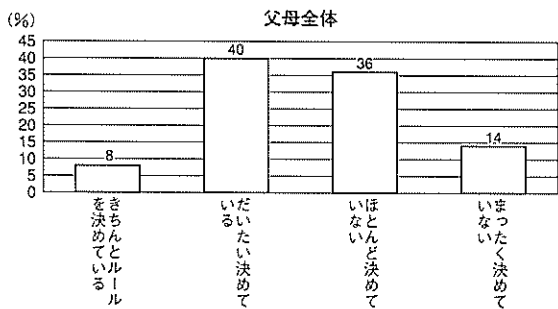
あなたは朝、お子さんを起こしていますか。



「毎朝」「ときどき」を合わせて62%の親が起こしています。特に母親は約6割が「毎朝」起こしており、子どもの自立起床のしつけにはほど遠い状況にあります。

テレビ・ゲームのルール

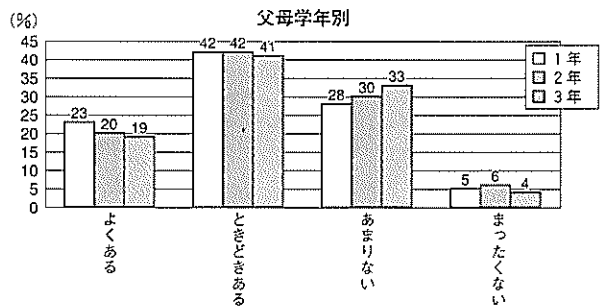
あなたは、お子さんのテレビやゲームの内容や時間について、何かルールを決めていますか。



「きちんと決めてる」「だいたい決めてる」を合わせるとルールを決めている親は48%、「ほとんど決めていない」「まったく決めていない」親は49%と約半々の割合です。ルールを決めていない家庭の子どもほどテレビ漬けになっているという状況があるようです。

他家族との交流

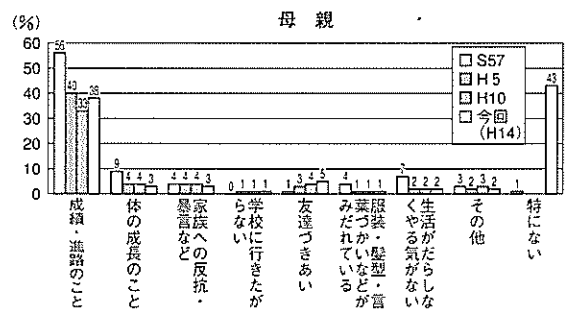
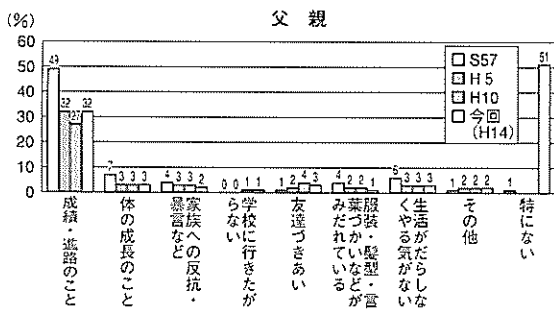
あなたの家族は他の家族との交流がありますか。



「よくある」「ときどきある」を合わせると62%の家族が交流があるという結果ですが、逆に全体の約3分の1の家族が交流が「あまりない」「まったくない」こととなります。孤立化によって親子関係が密接になりすぎストレスがたまるなど、様々な問題点が指摘されています。周囲から働きかけるなど、協働の子育てを考えていく必要があるでしょう。

子どもの悩み

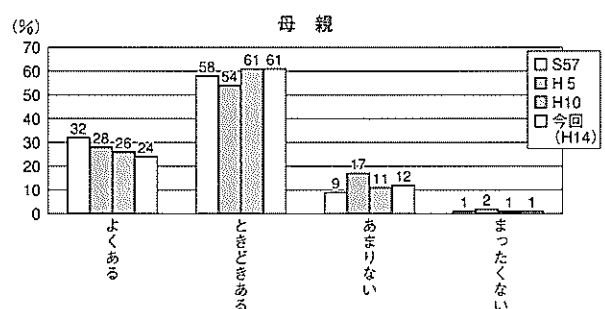
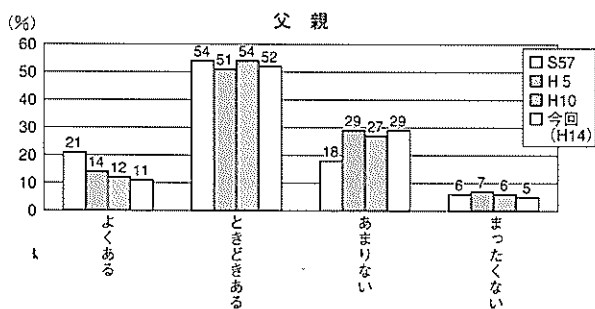
あなたは、お子さんについて困っていること、悩んでいることがありますか。



「最も困っている・悩んでいる」ことは父母ともに1位は「成績・進路」で、父親2位の「体の成長」、母親2位の「友達づきあい」とは大きな開きがあります。「成績・進路」については子どもの悩みと共通しており、学歴社会の反映と思われる。

将来・人生の話

あなたは、お子さんと、お子さんの将来や人生のことについて話す事がありますか。(どんな仕事につくか、どんな生き方をするかなど、受験以外で)

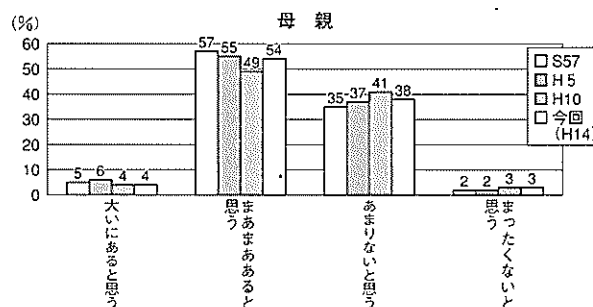
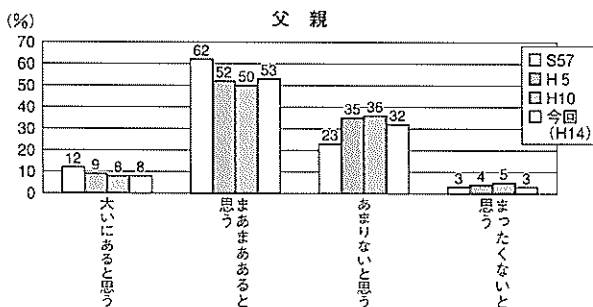


「よくある」と答えている父親・母親は調査を重ねるごとに減ってきているのが気になります。学年別では3年生が最も話しており、卒業年度には進路の話が多くなっているのではないかと思います。



しつけの自信

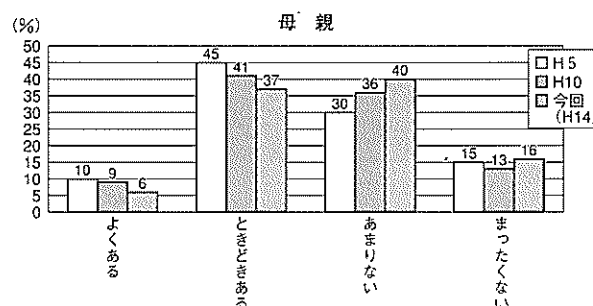
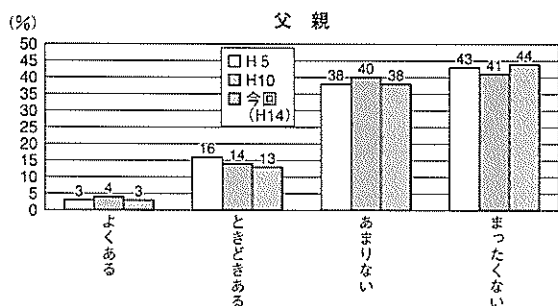
あなたはお子さんのしつけに自信がありますか。



「おおいにある」「まあまあある」合わせて父親61%、母親58%で、約6割の親が自信があるようです。自信がない理由として、父親は「仕事が忙しく、しつけにじっくりかかわる余裕がない(26%)」、母親は「気分や感情に左右され、しつけの態度にムラがある(29%)」が1位でした。子育ての難しさやその対応について、父親と母親が互いに補い合い、支え合いながらじっくり取り組んでいくことが望めます。

しつけの学習

あなたはしつけについて本を読んだり、テレビ番組を見たり、講演会にいったりすることがありますか。



母親のほうがしつけの学習をする機会が多いようですが、父母ともに「よくある」「ときどきある」が減ってきているのが気になります。特に母親は平成5年から12%減っており、これは仕事を持つ女性の増加と関連があるようです。

これからの子育てで考えたいこと

1. 主体的な生活習慣を育てましょう。

自立起床や朝食を毎日取るなど基本的な生活習慣を身につけさせるとともに、テレビやゲーム、マンガや雑誌等のメディアとどのように関わっていくべきかを主体的に考えさせながら、学習や読書といったよりよい習慣づくりを家庭生活の中で定着させていきましょう。

2. 子どもともっと会話をしましょう。

子どもと社会や将来(人生)について語り合っはいかがでしょうか。子どもと共に考え、悩み、喜ぶことをとおしてはじめて本音で話し合え、心が通じ合うものです。

3. 親自身が地域や学校に参画しましょう。

子どもは家庭だけで育つものではありません。親自身が地域や学校と関わりを持ちながら、世代や立場をこえて子育てについて考えていきましょう。